5. 中部地域

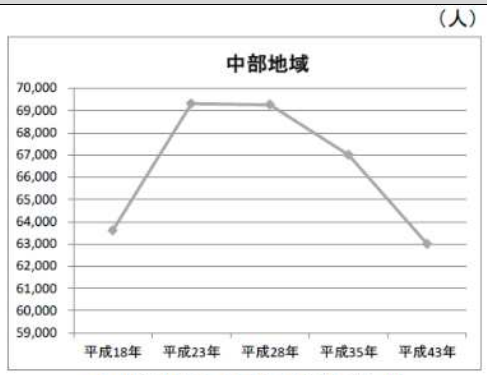
1）現況

位置

地域の面積

	全体	市街化区域	市街化調整区域
面積	2,836.0ha	936.7ha	1,899.3ha
構成比	100%	33.0%	67.0%

地域の人口の推移



■中部地域の人口と将来推計人口

人口			将来人口	
平成 18 年（2006 年）	平成 23 年（2011 年）	平成 28 年（2016 年）	平成 35 年（2023 年）	平成 43 年（2031 年）
63,603 人	69,309 人	69,258 人	67,000 人	63,000 人

大津市都市計画マスタープラン 2017－31

■地域の将来像　『街道となぎさを育む都心の魅力とにぎわいのまち 中部地域』

〔地域づくりの方針〕

◎人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくり

都心エリアでの拠点機能の充実と合わせて、各学区と拠点を結ぶ交通ネットワークを再構築するなど、安全・安心で魅力を創造するまちづくりをめざします。

◎多彩な地域資源に憩い、楽しさが感じられる回遊性の高い交流環境を創る

個性と魅力ある多彩な地域資源に磨きをかけ、それらにふれ合うことにより、憩いと楽しさが感じられる交流豊かなまちづくりをめざします。

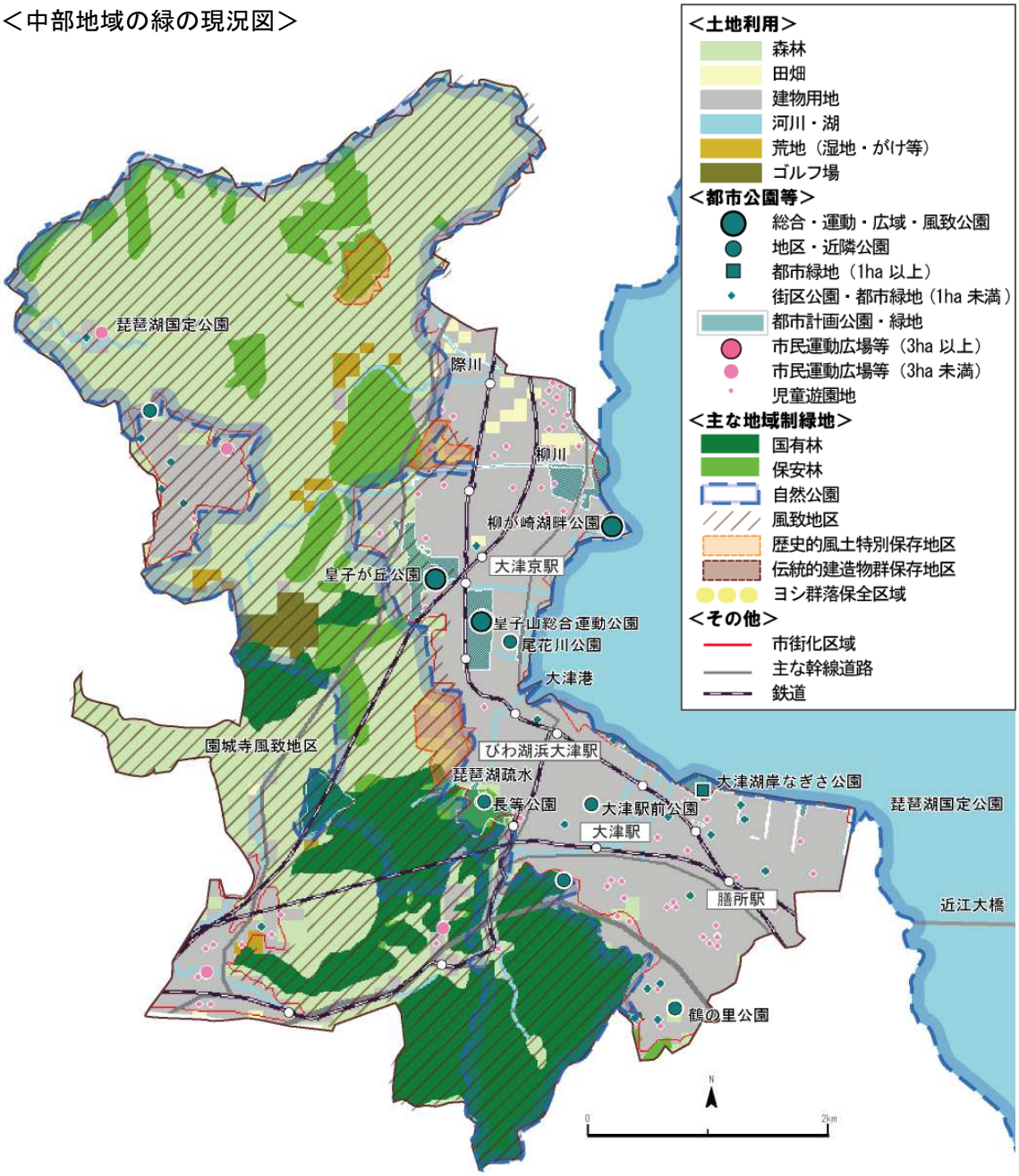
◎住み心地の良い移動に便利な生活環境の維持・充実に協働で取り組む

安全で活力のある市街地整備と公共施設の適正な管理などにより、安全・安心な生活環境と回遊性のある快適な移動環境が確保されたまちづくりをめざします。

地域の特色

- 人口減少率（平成 23 年～28 年）は約 0.1%と横ばいです。
- 平成 43 年の将来人口予測は約 63,000 人で、平成 28 年時と比べ約 6,000 人の人口減少が予測されており、市内では減少数が一番大きくなっています。
- 昭和 40 年代に開発された鶴の里など、高齢化が著しく進行する地域も有しています。

＜中部地域の緑の現況図＞



＊国有林と保安林が重なる箇所は、国有林を優先し記載

＜中部地域の緑の現況＞

- 山並みの緑のほとんどが、風致地区や自然公園特別地域に指定されています。
- 滋賀学区内の市街化区域内に、農地としての土地利用がみられます。

＜緑の機能からみた地域の現況と特徴＞

歴史・景観	・ 近江八景に「三井の晩鐘」（三井寺）。近江八景の一景「粟津の晴嵐」の風景を大津湖岸なぎさ公園に復元。 ・ 大津港のシンボルとしてびわこ花噴水。 ・ 大津駅前から琵琶湖へ続く中央大通りのにぎわい空間創出をめざす。 ・ 歴史的風土特別保存地区に３地区が指定。
防災	・ 山際の市街化区域の一部が土砂崩れの危険性が高い。 ・ 琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域がある。 ・ 指定緊急避難場所に指定された都市公園 柳が崎湖畔公園、大津湖岸なぎさ公園、皇子山総合運動公園 尾花川公園、皇子が丘公園
利活用・憩い	・ 大津湖岸なぎさ公園や柳が崎湖畔公園は、琵琶湖岸を公園として利用。 ・ 大津湖岸なぎさ公園にはホールや広場、なぎさのテラスなどの施設。 ・ 皇子山総合運動公園、皇子が丘公園、長等公園など歴史の古い公園がある。 ・ 大津市バリアフリー基本構想では大津湖岸なぎさ公園のバリアフリー化に向けた取り組みが位置づけられている。 ・ 大津びわこ競輪場跡地は、オープンスペースとしての活用が検討されている。
環境・生物多様性	・ 三井寺など、歴史ある寺社の山林の大半が風致地区に指定されている。
交流・人づくり	・ 都市公園 34 施設のうち、15 施設で公園愛護会活動を実施。 ・ 手のひら花苑８団体、ハートフルガーデナー2 団体、花街道１団体。 ・ 河川愛護活動が行われている。 ・ ガーデン友の会が柳が崎湖畔公園びわ湖大津館の花壇などを管理。 ・ 都市緑化啓発イベントおおつ花フェスタを例年大津湖岸なぎさ公園や皇子山総合運動公園で春と秋に開催。 ・ 緑地協定締結件数は２件。

＜施設緑地の面積＞

	市街化区域内	市街化調整区域内	合計	主な施設と面積
都市公園	49.3ha	3.1ha	52.4ha	皇子山総合運動公園 15.1ha、皇子が丘公園 16.1ha、柳が崎湖畔公園 4.5ha、長等公園 10.1ha
都市緑地	0.9ha	10.8ha	11.7ha	大津湖岸なぎさ公園 10.5ha（中部地域の面積）
公共施設緑地	5.6ha	1.8ha	7.4ha	児童遊園地 2.8ha、比叡平市民運動広場 2.0ha
合計	55.8ha	15.7ha	71.5ha	

施設緑地の一人あたり面積及び市街化区域に占める割合

		中部	全体
一人あたりの施設緑地面積	都市公園・都市緑地	9.3 ㎡/人	9.8 ㎡/人
	公共施設緑地	1.1 ㎡/人	1.6 ㎡/人
	合計	10.4 ㎡/人	11.4 ㎡/人
市街化区域に占める施設緑地の割合		6.0%	4.3%

＊人口は平成 28 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳と外国人登録人口の合計による。

都市計画公園・緑地の供用状況

	計画箇所数	計画面積	供用面積	供用率	主な未供用の公園と未供用面積 ＊( )内は都市計画決定面積
都市計画公園	11	73.7ha	47.5ha	64.5%	奥藤尾公園 11.6(11.6)ha、近江神宮外苑公園 10.5 (15.0)ha
都市計画緑地	4	36.0ha	29.6ha	82.2%	柳川緑地 1.9(1.9)ha
合計	15	109.7ha	77.1ha	70.3%	

＊滋賀の都市計画 2014（滋賀県）を元に編集。

＜緑に対する市民の認識（市民アンケートより）＞

	結果(特徴)
住まい周辺の緑	・　緑の満足度は 61％で全体と同じ。 ・　10 年前と比べ緑が「減った」29％は全体より 10％低い。 ・　市にふさわしい緑は「琵琶湖と周辺の山々」「公園・緑地・広場」が約 70％で全体結果とほぼ同じ。
公園・緑地の利用状況や今後	・　公園・緑地の利用目的は「散歩や休憩」69％は全体より７％高い。 ・　今後充実すべきことは、高い順に「景観形成」39％、「維持管理・活用など質の充実」38％、「歴史や文化に配慮」32％。「行楽・観光の拠点機能充実」26％が全体と比べ 6％高く、「カフェや売店など設置」18％が全体と比べ 4％高い。 ・　よく利用する公園・緑地は高い順に「大津湖岸なぎさ公園」、「皇子山総合運動公園」、「皇子が丘公園」、「膳所城跡公園」、「柳が崎湖畔公園」。 ・　児童遊園地の今後の活用は、全体結果とほぼ同じ。
緑のまちづくり活動	・　緑のまちづくりに「取り組みたい」65％は全体より６％低い。 ・　取り組んでいることや今後取り組みたいことは高い順に「ゴミ拾いなどの清掃」４１％、「草刈り」35％、で全体と比べ、「ゴミ拾いなどの清掃」が 5％、「草刈り」が１０％低い。

２）課題

緑の骨格の保全に関する課題

- 琵琶湖岸は、大津湖岸なぎさ公園や柳が崎湖畔公園などの都市公園として、市民や観光客にも人気の公園となっています。一方、公園以外の湖岸部は、主にマンションや競艇場などが面しており、地域に開いた水辺景観や湖岸利活用の連続性は保たれていません。
- 景観形成の充実を公園緑地に望む市民が多く、大津市景観計画の重要眺望点である柳が崎や大津港、大津湖岸なぎさ公園など湖岸一帯からの眺望は、琵琶湖や山並みなどへ大景観を生かし、魅力を高めていく必要があります。
- 地域の北部を流れる柳川と際川が、河川緑地として指定されています。地域の中心部を流れる河川に対し、河川緑地の指定はありませんが、河川愛護団体連合会による河川愛護活動が行われています。引き続き、支援や協働での保全活動の充実が求められます。
- 山裾部に接する市街化区域の一部が、土砂崩れの危険性が高いとされています。市民の安心安全に寄与する緑の維持管理が期待されます。

都市公園などのマネジメントの強化と多機能化に関する課題

- 本地域の人口は市内で２番目に多いものの、目標年次の平成 43 年には平成 28 年時と比べ、市内で最も多い約 6,000 人の減少が予測されています。本市で最初に開園された長等公園や、皇子山総合運動公園、皇子が丘公園をはじめ、歴史の古い都市公園があります。今一度、既存公園のあり方を検討し、人口動向に即した公園配置計画の見直しと、使用開始から長期間が経過し老朽化した公園などの再構築を進める必要があります。
- 行楽や観光の拠点機能やカフェや売店などの設置への市民要望も高く、都心エリアとして本地域の魅力を高める都市公園の活用が求められています。
- 市民の健康増進の場となる公園の活用や、スポーツ大会開催やユニバーサルデザインへの対応など、多様な利用者に即した公園の活用を図る必要があります。
- 大津びわこ競輪場跡地について、地域の魅力を高めるオープンスペースとして具体的な検討を進めていく必要があります。
- 多くの人が来訪し生活する都心エリアとしての、公園の防災利用が求められます。
- JR 大津駅、東海道沿いの歴史的まち並みや琵琶湖疏水の運河など、立地や多彩な資源を生かし回遊性を高め、にぎわいづくりに寄与する緑の活用が求められています。

協働による緑のまちづくりの促進に関する課題

- 緑のまちづくりに対し関心のある人が他地域と比べ少なくなっています。大津湖岸なぎさ公園や皇子山総合運動公園は、おおつ花フェスタの会場になるなど、都市緑化の啓発拠点として利用されています。地の利を生かし、市民緑化の舞台として協働による緑のまちづくりや未利用地の活用を、市民に拡げていく事が必要です。
- 市街化が進んだ市街化区域内に新たに緑を創出する手段として、中高層建築物の緑化や民有地緑化が期待されます。

３）地域の将来像

地域の特性や課題などを踏まえ、中部地域の将来像を次のように設定します。

地域の将来像

にぎわいを生むなぎさの魅力に満ちた緑の地域

４）方針

基本方針１　緑の骨格の保全

- 施設管理者と連携をして、湖岸部の緑地の連続性の推進に取り組みます。
- 地域制緑地や景観計画などの適正な運用により、湖岸や緑の山並みの景観・環境保全を継続し、魅力の向上に努めます。
- 地域住民による河川緑化・清掃を支援し、更なる活動の推進に努めます。
- 適正な山並みの緑の維持管理による防災対策に努めます。

基本方針２　都市公園などのマネジメントの強化と多機能化

- 少子高齢化などの社会変化による市民ニーズに対応するため、都市公園の配置や児童遊園地の今後の活用を検討します。大津湖岸なぎさ公園における維持管理（園路補修、捨石護岸の補修など）をはじめ、老朽化した施設の再構築に努めます。
- 都心エリアにおける都市公園及び緑地のにぎわい創出のため、民間活用により、カフェや飲食店の出店、これまでと異なる手法による、更なる利活用について検討を進めます。特に、大津湖岸なぎさ公園においては、「にぎわい重点エリア」として更なる利活用に努めます。
- 市民などのレクリエーション活動や健康増進、利用促進に努めるため、皇子が丘公園などのあり方を検討するほか、スポーツの利用やユニバーサルデザインへの対応を促進します。
- 大津びわこ競輪場跡地については、大津びわこ競輪場跡地利活用における民間活力の導入の基本的な方針に基づき、暫定的な利活用を進めます。
- 皇子山総合運動公園、皇子が丘公園などの指定緊急避難場所に指定された都市公園を中心に、防災公園としての機能の利活用と地域住民による自主防災活動での施設活用を進めます。
- JR 大津駅、京阪びわ湖浜大津駅及び琵琶湖岸、三井寺、琵琶湖疏水周辺などにおいて地域住民や事業者などと連携し、これらの地域資源を生かした個性と魅力に満ちた空間創出とともに、地域住民や事業者などが連携しながら商業振興施策などを活用し、緑による市街地環境の充実やにぎわいの向上に努めます。

基本方針３　協働による緑のまちづくりの促進

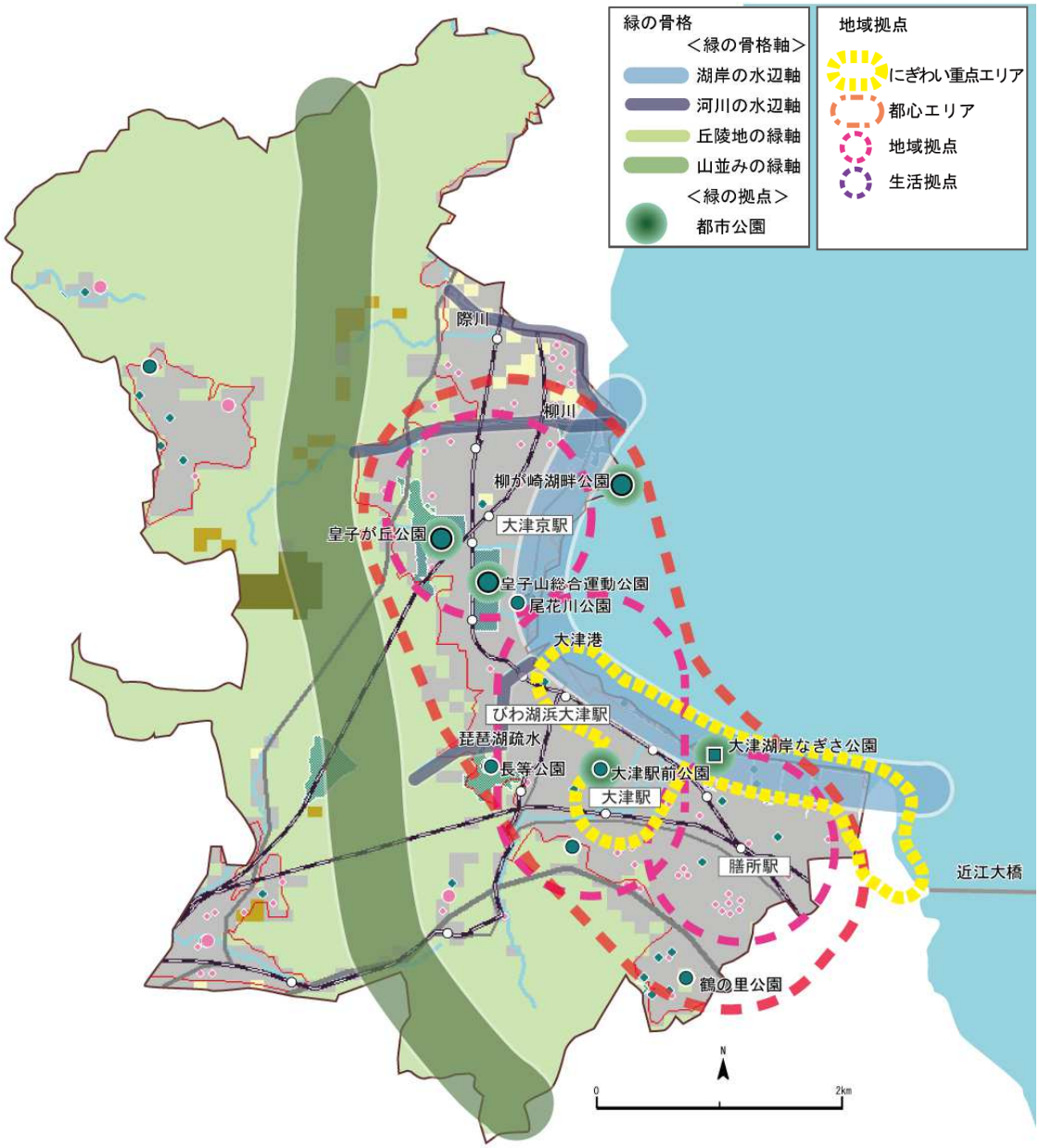
- 緑の啓発イベントへの参加促進により、緑の市民活動団体への市民理解を広め、公園愛護会などと協働した公園の維持管理に努めます。市民の緑のまちづくりの拠点となる未利用地の活用を検討します。
- 市街地内の緑化を推進するために、公共の建築物や、事業所などの民間の中高層建築物、住宅地など、敷地内の緑化を推進します。

大津湖岸なぎさ公園

皇子が丘公園

琵琶湖疏水の紅葉

＜中部地域の方針図＞


緑の骨格
＜緑の骨格軸＞
湖岸の水辺軸
河川の水辺軸
丘陵地の緑軸
山並みの緑軸
＜緑の拠点＞
都市公園
地域拠点
にぎわい重点エリア
都心エリア
地域拠点
生活拠点
際川
柳川
柳が崎湖畔公園
大津京駅
皇子が丘公園
皇子山総合運動公園
尾花川公園
大津港
びわ湖浜大津駅
琵琶湖疏水
長等公園
大津駅前公園
大津湖岸なぎさ公園
大津駅
膳所駅
近江大橋
鶴の里公園
N
0
2km

6. 中南部地域

1）現況

位置

地域の面積

	全体	市街化区域	市街化調整区域
面積	1,560.6ha	672.3ha	888.3ha
構成比	100%	43.1%	56.9%

地域の人口の推移

■中南部地域の人口と将来推計人口

人口			将来人口	
平成 18 年（2006 年）	平成 23 年（2011 年）	平成 28 年（2016 年）	平成 35 年（2023 年）	平成 43 年（2031 年）
44,007 人	43,128 人	43,030 人	42,000 人	40,000 人

大津市都市計画マスタープラン 2017－31

■地域の将来像　『膳所城跡と旧東海道のまち並みの歴史が漂うまち 中南部地域』

〔地域づくりの方針〕

◎人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくり

石山駅周辺では拠点機能の充実と合わせて、各学区と拠点を結ぶ交通ネットワークを再構築するとともに、都市基盤施設の整備を推進します。

◎歴史・文化漂うまち並みやうるおいのある水辺の環境を更に高める

歴史文化漂うまち並みや湖岸・瀬田川のうるおいのある水辺の環境を更に高めていくため、歴史と湖岸や瀬田川の環境を守り育て、活用するまちづくりをめざします。

◎安心・便利に暮らせる定住環境の維持・充実に協働で取り組む

高齢化が著しい地域においては、道路、公園などの生活基盤施設の整備や住民が主体となった定住環境の維持・充実に取り組むなど、高齢者、子育て世代も安心・便利に暮らし続けられるまちづくりをめざします。

地域の特色

・ 平成 43 年の将来人口予測は 40,000 人で、平成 28 年時と比べ約 3,000 人の人口減少が予測されています。

＜中南部地域の緑の現況図＞

＊国有林と保安林が重なる箇所は、
国有林を優先し記載

＜中南部地域の緑の現況＞

- 森林の大半が国有林や保安林、自然公園特別地域などに指定されています。
- 音羽山周辺などの山並みの緑のほとんどが風致地区に指定されています。
- 平地には市街地が広がります。

＜緑の機能からみた地域の現況＞

歴史・景観	・ 唐橋から琵琶湖への夕景は「瀬田の夕照」として近江八景の一景。 ・ 膳所城跡、東海道の歴史的まち並み、瀬田の唐橋などの歴史文化遺産がある。
防災	・ 山裾部の一部市街地が土砂崩れの危険性が高い。 ・ 琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域がある。 ・ 指定緊急避難場所に指定された都市公園 膳所城跡公園、湖城が丘街区公園、茶臼山公園
利活用・憩い	・ 膳所城跡が膳所城跡公園として整備されている。 ・ 湖岸は、大津湖岸なぎさ公園や膳所城跡公園など公園として利用されている。 ・ 大津湖岸なぎさ公園にはレストランやプールなどの施設がある。 ・ 音羽山一帯は琵琶湖やまち並みの眺望を楽しむことができる身近な山としてハイキング利用が人気。風致地区にも指定されている。
環境・生物多様性	・ 滋賀県ビオトープネットワーク長期構想で瀬田川が生態回廊に指定されている。
交流・人づくり	・ 都市公園 14 施設のうち、7 施設で公園愛護会活動を実施。 ・ 手のひら花苑 8 団体、ハートフルガーデナー4 団体、すみれ会 1 団体。 ・ 緑地協定締結件数は４件。 ・ 河川愛護活動が行われている。

＜施設緑地の整備状況＞

施設緑地の面積

	市街化区域内	市街化調整区域内	合計	主な施設と面積
都市公園	9.4ha	0ha	9.4ha	茶臼山公園 4.6ha、膳所城跡公園 3.0ha
都市緑地	0ha	18.7ha	18.7ha	大津湖岸なぎさ公園 18.7ha
公共施設緑地	2.9ha	0ha	2.9ha	児童遊園地 2.2ha
合計	12.3ha	18.7ha	31.0ha	

施設緑地の一人あたり面積及び市街化区域に占める割合

		中南部	全体
一人あたりの施設緑地面積	都市公園・都市緑地	6.5 ㎡/人	9.8 ㎡/人
	公共施設緑地	0.7 ㎡/人	1.6 ㎡/人
	合計	7.2 ㎡/人	11.4 ㎡/人
市街化区域に占める施設緑地の割合		1.8%	4.3%

＊人口は平成 28 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳と外国人登録人口の合計による。

都市計画公園・緑地の供用状況

	計画 箇所数	計画 面積	供用 面積	供用率	主な未供用の公園と未供用面積 ＊( )内は都市計画決定面積
都市計画 公園	5	49.6ha	8.4ha	16.9%	茶臼山公園 7.8(12.4)ha
都市計画 緑地	3	40.2ha	29.8ha	74.1%	瀬田川緑地 8.8(8.9)ha<南部、東部含む>
合計	8	89.8ha	38.2ha	42.5%	

＊滋賀の都市計画 2014（滋賀県）を元に編集。

＜緑に対する市民の認識（市民アンケートより）＞

	結果（特徴）
住まい 周辺の緑	・　緑の満足度は５７％で、全体と比べ４％低い。 ・　１０年前と比べた緑の量は「減った」が 42%で全体と比べ３％高い。 ・　大津市にふさわしい緑は高い順に「公園・緑地・広場」76%、「琵琶湖と周辺の山々」７２%。「公園・緑地・広場」は全体と比べ７%高い。
公園・緑地 の利用状況 や今後	・　公園緑地の利用目的は高い順に「散歩休憩」61%、「動植物に親しむ」26%。「動植物に親しむ」は全体と比べ５%高い。 ・　今後充実すべきことは高い順に「景観形成」「防災機能の充実」「維持・管理など質を充実」で、順位、割合とも全体とほぼ同じ。 ・　よく利用する公園は高い順に「膳所城跡公園」「大津湖岸なぎさ公園」「茶臼山公園」。 ・　大津市にふさわしい緑は「公園・緑地・広場」76%が最も高く、他地域の１位は「琵琶湖と周辺の山々」であり、全体と結果が異なる。 ・　児童遊園地の今後の活用は市域全体とほぼ同じ割合。 ・　公園以外で充実すべき緑は、「学校や公共施設での緑の充実」４０%が全体と比べ６%高い。「森林風景」41%が全体と比べ５%低く、「田園風景の緑の充実」２１%が全体と比べ８%低い。
緑の まちづくり 活動	・　緑のまちづくり活動に「取り組みたい」68%は全体より３%低い。 ・　取り組んでいることや今後取り組みたいことは高い順に「草刈り」42%、「ゴミ拾いなどの清掃」35%。「ゴミ拾いなどの清掃」は全体と比べ１１%低い。

２）課題

緑の骨格の保全に関する課題

- 琵琶湖畔は、大津湖岸なぎさ公園や膳所城跡公園など、市民が水辺にふれあえる公園緑地として整備されています。瀬田川にかかる唐橋から琵琶湖を望む風景は、近江八景「瀬田の夕照」に選定されています。緑地が少ない市街化区域内へ水や緑によるうるおいをもたらすためにも、河川や湖岸などの資源を活用した水辺景観の形成を進める必要があります。
- 瀬田川以外の河川に対し都市緑地の都市計画決定はされていませんが、相模川、三田川、篠津川などでは昭和 40～50 年代から河川愛護団体による維持管理活動が行われており、引き続き継続できるよう支援が必要です。
- 山並みの緑のほとんどは国有林や保安林、自然公園特別地区などに指定されており、引き続き継続が求められます。ハイキングなどに利用される音羽山一帯は、身近な場所で緑にふれあえる場としての活用が求められます。
- 山際と隣接する市街地の一部が土砂災害の可能性が高い区域に指定され、対策が必要です。

都市公園などのマネジメントの強化と多機能化に関する課題

- 公園などの施設緑地への市民意識が高く、身近な緑地の活用が求められています。
- 都心エリアとしての魅力を高めるために、琵琶湖岸の大津湖岸なぎさ公園や膳所城跡公園など、市民や観光利用の多い公園緑地の更なる利用の推進が求められています。
- 都市公園への防災機能に対する要望を反映し、定住性を高めるためにも指定緊急避場所の公園をはじめ、新たな防災拠点となる公園の活用が求められます。
- 本地域では、膳所城跡公園、東海道の歴史的まち並み、瀬田の唐橋などの、豊かな歴史資源があり、地域の魅力を高めるためにもその保全活用が必要です。
- 市街地と近接し、音羽山や琵琶湖などの自然や、大津湖岸なぎさ公園や膳所城跡公園など湖岸を生かした都市公園があり、まちにうるおいをもたらす景観資源としてこれらの活用が求められます。

協働による緑のまちづくりの促進に関する課題

- 公園愛護会活動のほか、手のひら花苑、ハートフルガーデナーなどの市民活動が実施されています。緑のふれあいや地域の交流の場として公園緑地の活用が進むよう、更なる支援が望まれます。活動の継承と同時に、緑の少ない市街地への緑を新たに創出するためにも、膳所城下町や石山駅など、地域の拠点となる地区における市民活動の推進が望まれます。
- 市街化が進んだ地域や、工業地において、新たに緑を創出する手段として、公共施設や中高層建築物、工場などにおける民有地の緑化が期待されます。
- 緑地協定の協定期間が今後満了を迎える地区が生じており、協定の継続に向けた対策が必要です。
- 市街化区域内の農地については、緑地の保全やコンパクトなまちづくりの観点からの保全が望まれます。

３）地域の将来像

地域の特性や課題などを踏まえ、中南部地域の将来像を次のように設定します。

地域の将来像

自然と歴史が織り成す、うるおいある緑の地域

４）方針

基本方針１　緑の骨格の保全

- 地域制緑地や景観計画などの適正な運用により、湖岸や河川などの景観・環境保全の継続と、市街地にうるおいをもたらす水辺や緑の誘導に努めます。
- 市街地を流れる河川について、河川愛護団体などによる市民の河川の緑化や清掃を支援し、市街地における河川環境の保全に努めます。
- 地域制緑地や景観計画などの適正な運用により、山並みの緑の確実な保全を継続し、ハイキングなど、身近な場所で自然に親しめる場としての活用に努めます。
- 山地災害が発生する恐れのある斜面地について、森林の適正な管理を促し、防災性の向上につなげます。

基本方針２　都市公園などのマネジメントの強化と多機能化

- 少子高齢化など社会変化による市民のニーズに対応した、都市公園と児童遊園地の集約や再配置などの見直しを進めます。
- 大津湖岸なぎさ公園など、都心エリアのにぎわいを創出する都市公園については、これまでと異なる手法による利活用について検討を進めます。
- 膳所城跡公園、湖城が丘街区公園、茶臼山公園などの指定緊急避難場所となる都市公園を中心に、防災公園としての利活用と地域住民による自主防災活動での施設活用を進めます。また、若葉台の防災公園の整備を進め、市民活用の促進に努めます。
- 膳所城跡公園、東海道の歴史的まち並み、瀬田の唐橋などの史跡に伴う緑について、地域住民などと協働で地域振興・観光振興への活用を図ります。
- 音羽山系の山並みや琵琶湖、瀬田川の清流、東海道の歴史的まち並みなど、身近に自然や歴史を感じられるような緑のネットワークの充実と美しい風景の保全に努めます。

膳所城下町

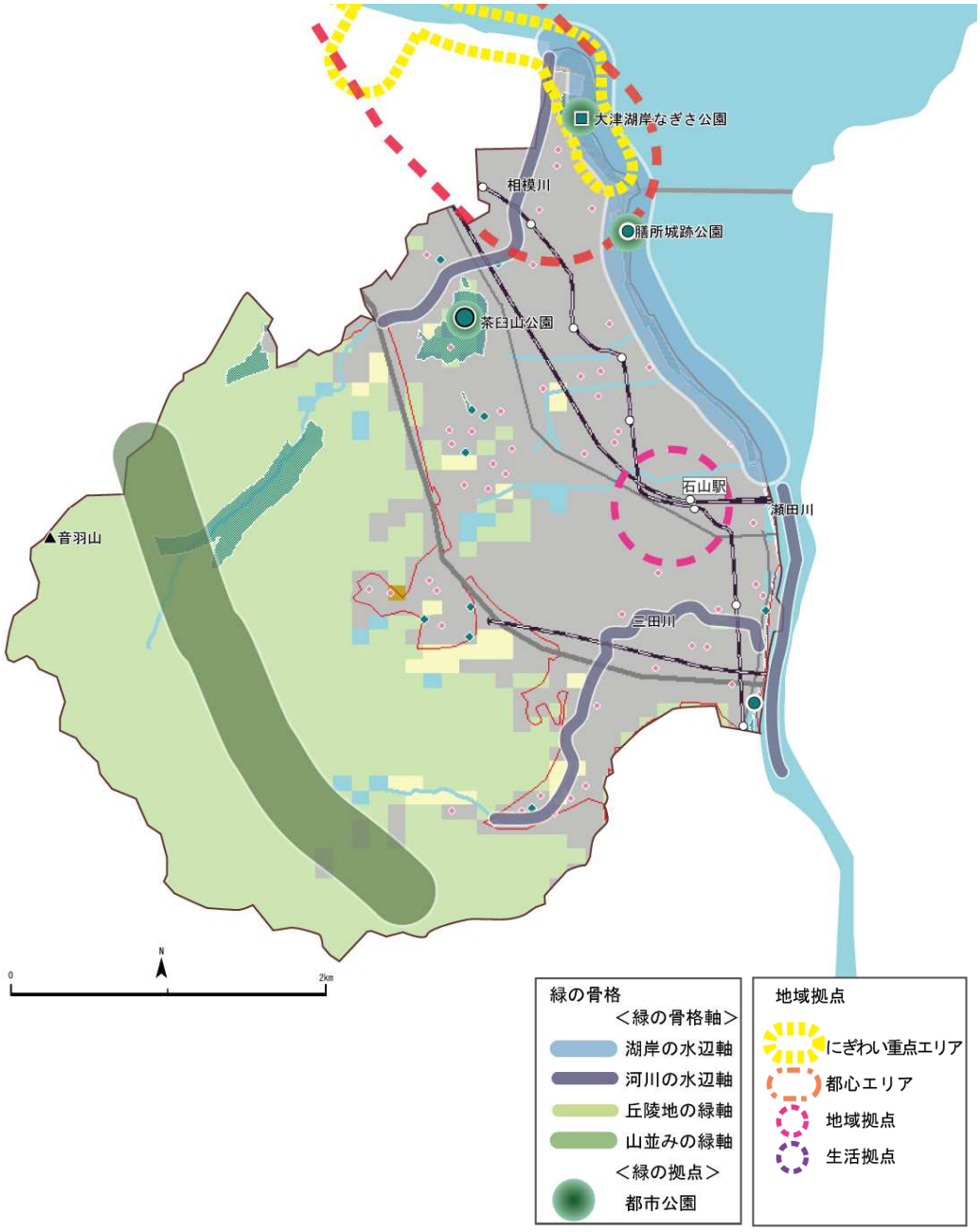
基本方針３　協働による緑のまちづくりの促進

- 手のひら花苑や公園愛護会、グリーンレンジャーの活動などへの参加を広め、地域のコミュニティを深める緑のまちづくり活動を推進します。地域の拠点となる膳所城下町や石山駅周辺での手のひら花苑の取り組みを通じた花壇づくりなど、協働による花と緑の創出を進めます。
- 市街地での緑化を推進するために、公共施設や、工場などの事業所、民間の中高層建築物、住宅地などにおける敷地内緑化を推進します。
- 緑地協定への理解を深め、締結期間が終了した区域での緑の維持・保全活動を推進します。
- 市街化区域内の農地について、維持・活用に向けた啓発活動に努めます。

膳所城跡公園の遊具

瀬田の唐橋

＜中南部地域の方針図＞


大津湖岸なぎさ公園
相模川
膳所城跡公園
茶臼山公園
石山駅
瀬田川
音羽山
三田川
N
0
2km
緑の骨格
＜緑の骨格軸＞
湖岸の水辺軸
河川の水辺軸
丘陵地の緑軸
山並みの緑軸
＜緑の拠点＞
都市公園
地域拠点
にぎわい重点エリア
都心エリア
地域拠点
生活拠点

7. 南部地域

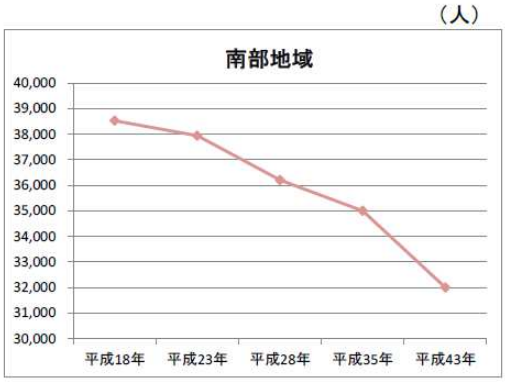
1）現況

位置

地域の面積

	全体	市街化区域	市街化調整区域
面積	10,567.4ha	705.4ha	9,862.0ha
構成比	100%	6.7%	93.3%

地域の人口の推移



人口			将来人口	
平成 18 年（2006 年）	平成 23 年（2011 年）	平成 28 年（2016 年）	平成 35 年（2023 年）	平成 43 年（2031 年）
38,527 人	37,939 人	36,204 人	35,000 人	32,000 人

大津市都市計画マスタープラン 2017－31

■地域の将来像 『古典に詠われた美しい大津の原風景のまち 南部地域 』

〔地域づくりの方針〕

◎人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくり

南郷市民センター、大石市民センター周辺における拠点機能の集約と合わせて、各学区と拠点を結ぶ交通ネットワークを再構築するとともに、都市基盤施設の整備を推進するなど、市民センター周辺における生活拠点の充実に向けたまちづくりをめざします。

◎瀬田川や石山寺などの自然や歴史・文化を守り育てる

住み心地の良い地域環境の創造に向けて、瀬田川や石山寺などの自然や歴史・文化遺産を生かしたまちづくりをめざします。

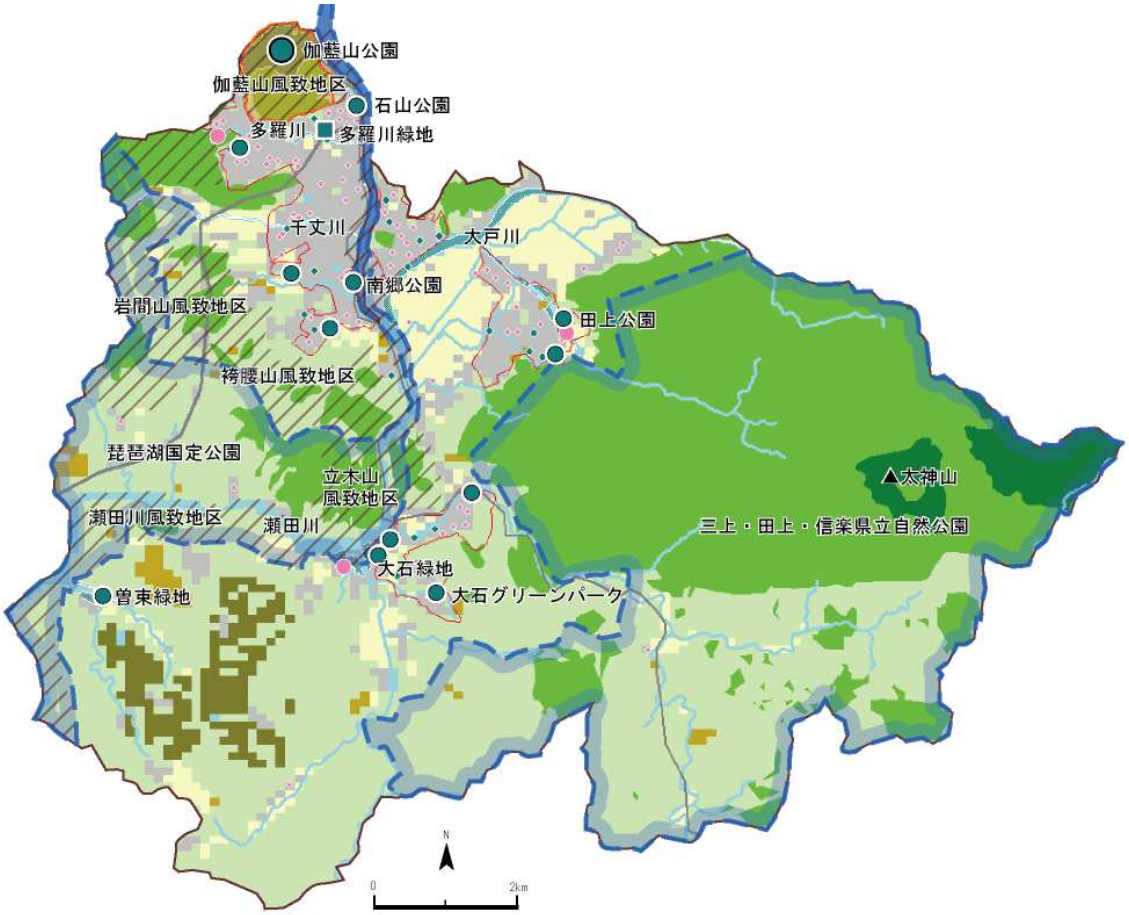
◎自然と歴史が調和した定住環境の維持・充実に協働で取り組む

人口減少が進む中、住民が主体となって定住環境の維持・充実に取り組むなど、自然と歴史が調和したまちづくりをめざします。

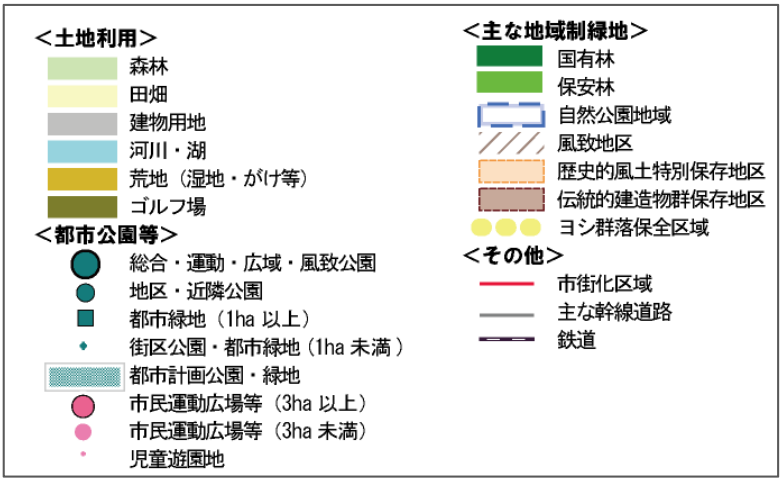
地域の特色

- 地域の人口減少率（平成 23 年～28 年）は約 4.6%と市内で最も高くなっています。
- 平成 43 年の将来人口予測は約 32,000 人で、平成 28 年時と比べ約 4,000 人の減少が予測されています。

＜南部地域の緑の現況図＞



＊国有林と保安林が重なる箇所は、国有林を優先し記載



＜南部地域の緑の現況＞

- 田上山など山並みの緑のほとんどが自然公園や保安林などに指定されています。
- 丘陵地の森林は市街化調整区域です。一部でゴルフ場などの開発が行われています。
- 市街化区域内の一部が農地や森林として利用されています。

＜緑の機能からみた地域の現況＞

歴史・景観	・ 瀬田川にかかる鹿跳橋付近は鹿跳渓谷と呼ばれ、急流と奇岩による景勝地となっている。 ・ 太神山周辺は過去の樹木伐採により風化が進む。周辺は花崗岩からなる岩肌が特徴的。
防災	・ 山裾部の一部地域が土砂崩れの危険性が高い地域。 ・ 大戸川では古くから水害に悩まされ、近年では平成 25 年 9 月に集中豪雨により出水し被害を受けた。 ・ 大戸川の整備が進められている。 ・ 指定緊急避難場所に指定された都市公園 石山公園、南郷公園、湖南台地東児童公園、稲津南児童公園 湖南台地西児童公園、田上公園、大石緑地
利活用・憩い	・ 紫式部のゆかりの地として有名な石山寺は、花や紅葉の名所。 ・ 田上山や瀬田川渓谷、大戸川、信楽川をはじめ、石山温泉、大石緑地など、野外レクリエーションや鑑賞・保養の場となっている。 ・ 南郷公園は土木遺産の南郷洗堰や、環境学習施設の水のめぐみ館アクア琵琶に近接。 ・ 大石緑地はテニスや野球などのスポーツ施設や合宿施設を併設している。
環境・生物多様性	・ 滋賀県ビオトープネットワーク長期構想では生態回廊に瀬田川や大戸川、重要拠点区域に田上・信楽区域が指定。 ・ 新名神大津スマートインターチェンジの整備をはじめ、各種開発への環境配慮が必要。
交流・人づくり	・ 都市公園 35 施設のうち、14 施設で公園愛護会活動を実施。 ・ 手のひら花苑 11 団体、ハートフルガーデナー6 団体、すみれ会 1 団体。

＜施設緑地の整備状況＞

施設緑地の面積

	市街化区域内	市街化調整区域内	合計	主な施設と面積
都市公園	13.8ha	52.5ha	66.3ha	田上公園 4.5ha、大石グリーンパーク 2.1ha、大石緑地 9.6ha、伽藍山公園 38.8ha
都市緑地	1.4ha	0.7ha	2.1ha	多羅川緑地 1.2ha
公共施設緑地	3.5ha	2.6ha	6.1ha	児童遊園地 2.6ha
合計	18.7ha	55.8ha	74.5ha	

施設緑地の一人あたり面積及び市街化区域に占める割合

		南部	全体
一人あたりの施設緑地面積	都市公園・都市緑地	18.9 ㎡/人	9.8 ㎡/人
	公共施設緑地	1.7 ㎡/人	1.6 ㎡/人
	合計	20.6 ㎡/人	11.4 ㎡/人
市街化区域に占める施設緑地の割合		2.6%	4.3%

＊人口は平成 28 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳と外国人登録人口の合計による。

都市計画公園・緑地の供用状況

	計画箇所数	計画面積	供用面積	供用率	主な未供用の公園と未供用面積 ＊( )内は都市計画決定面積
都市計画公園	6	48.9ha	48.9ha	100.0%	
都市計画緑地	6	52.3ha	13.2ha	25.2%	瀬田川緑地 8.0(8.8)ha<中南部・東部含む>、大戸川緑地 23.4(27.0)ha<東部含む>、千丈川緑地 2.7(2.7)ha
合計	12	101.2ha	62.1ha	61.4%	

＊滋賀の都市計画 2014（滋賀県）を元に編集。

＜緑に対する市民の認識（市民アンケートより）＞

	結果（特徴）
住まい周辺の緑	・　緑の満足度は７０％で、他地域と比べ最も高く、全体と比べ９％高い。 ・　１０年前と比べた緑の量は「変わらない」が４７％で全体と比べ５％高い。 ・　大津にふさわしい緑は高い順に「琵琶湖と周辺の山々」７１％、「公園・緑地・広場」６９％で、「琵琶湖と周辺の山々」は全体と比べ４％低い。
公園・緑地の利用状況や今後	・　よく利用する公園上位は「南郷公園」「大津湖岸なぎさ公園」「大石緑地」。 ・　利用目的は高い順に「散歩休憩」61%、「子どもの付添」27%、「祭りやイベント」26%。 ・　今後充実すべきことは、高い順に「防災機能」４４%、「景観形成」36%、「歴史や文化に配慮」30%。「防災機能」が全体と比べて８%高い。また「高齢者が利用」15%は全体と比べ 6%高く、「様々な子どもに対応した遊具」９%は全体と比べ６%低い。 ・　公園以外で充実すべき緑は高い順に「河川緑地や琵琶湖岸」80%、「森林風景」61%。「森林風景」は全体と比べ１２%高い。
緑のまちづくり活動	・　緑のまちづくり活動に「取り組みたい」は 69%で全体より 2%低い。 ・　取り組んでいることや今後取り組みたいことは高い順に「ゴミ拾いなどの清掃」52%、「草刈」48%で、全体と比べ「ゴミ拾いなどの清掃」は 6%、「草刈」は 5%高い。

２）課題

緑の骨格の保全に関する課題

- 滋賀県ビオトープネットワーク長期構想で生態回廊に位置づけられた瀬田川や大戸川では、水辺の景観や歴史性、利用を考慮しながら、生態回廊としての機能を維持していく必要があります。
- 瀬田川より南側の丘陵地は市街化調整区域ですが、有効な地域制緑地による保全施策が乏しい地域です。計画されている新名神大津スマートインターチェンジの整備をはじめ、開発に伴う地域への緑の影響を最小限に留めることが必要です。
- 山並みの緑の大半は、自然公園や風致地区、保安林などで担保されています。また、伽藍山を中心に石山寺歴史的風土特別保存地区が指定されています。地域の魅力を高めるためにも豊かで歴史性のある緑の保全を継続していく必要があります。
- 山地や丘陵地の斜面などの一部が土砂災害の危険性が高い地域に指定されているため、森林保全の取り組みの継続が必要です。また、大戸川周辺の集落や農地が浸水想定区域に指定されているため、安全安心な暮らしのための河川の対策が望まれます。

都市公園などのマネジメントの強化と多機能化に関する課題

- 市民の緑の満足度も市内で最も高くなっています。緑の質・量ともに充実した地域ですが、市民要望の高い防災機能や高齢者利用に配慮した公園緑地の施設のあり方の検討など、地域の実情に応じつつ人口動向をふまえた都市公園などの施設の見直しが必要です。
- スポーツ施設グラウンドや合宿所をもつ大石緑地は、新名神大津スマートインターチェンジの開設をうけ、広域からの利用や各種大会にも配慮した施設の利活用の促進が望まれます。
- 瀬田川や大戸川などの河川に隣接して観光地として人気の石山寺や風致公園の伽藍山公園、デイキャンプも楽める田上運動広場、土木遺産の南郷洗堰や環境学習施設の水のめぐみ館アクア琵琶に近接する南郷公園など、スポーツや自然体験、環境学習の場となる公園緑地や運動広場が充実しており、地域の魅力を高めるためにも更なる活用が望まれます。

協働による緑のまちづくりの促進に関する課題

- 公園での清掃や草刈りなどへの参加に対し市民意識が高く、定住性を高める上でも、地域住民の交流の場としての公園緑地の活用、維持管理活動の支援・推進が求められます。
- 市街化区域内の農地は、緑地の保全や今後の人口動向をふまえ保全が望まれます。
- 新名神大津スマートインターチェンジの開設により、交通の利便性が向上します。立地を生かし、企業や来訪者などの多様な主体と市民が交流・参加して行う緑の保全や環境学習、自然体験の場づくりなど、魅力ある緑を活用した交流と地域振興が望まれます。瀬田川緑地や大戸川緑地などの河川緑地や大石緑地や田上運動広場などの自然体験の拠点が、地域内外の子ども達の自然体験の場として活用できるよう、地域住民はもとより大学やNPOなどの専門機関と協働する取り組みが求められます。

３）地域の将来像

地域の特性や課題などを踏まえ、南部地域の将来像を次のように設定します。

地域の将来像

瀬田川の自然を生かした、緑あふれる地域

４）方針

基本方針１　緑の骨格の保全

- 瀬田川、大戸川の水辺環境の保全に努め、生態回廊としての機能が継続されるよう配慮します。
- 開発に伴う緑の環境への影響の回避・低減を優先し、失われる緑の代償となる新たな緑地の創出を、必要に応じて検討します。
- 地域制緑地や景観計画などの適正な運用により、山並みの緑の確実な保全を継続します。また、歴史的風土特別保存地区などにおける歴史遺産と一体となった緑の保全・育成に努めます。
- 管理者と協力しながら、山地災害が発生する恐れのある斜面地の森林の適正な維持管理や、大戸川の整備などによる浸水対策、防災対策を促進します。

基本方針２　都市公園などのマネジメントの強化と多機能化

- 少子高齢化などの社会変化による市民ニーズに対応するため、公園や児童遊園地の今後の活用方法を検討し、地域の実情にあわせた公園配置や機能面の適正化を図ります。
- 新名神大津スマートインターチェンジの開設により、利便性が向上することが想定されることから、大石緑地については、テニスやグラウンドゴルフなどのスポーツ拠点としての活用に努めます。
- 瀬田川や大戸川などの河川や、河川沿いの都市公園や歴史文化資源などを活用し、自然にふれあえる空間の創出やネットワーク利用を図ります。

曽束緑地

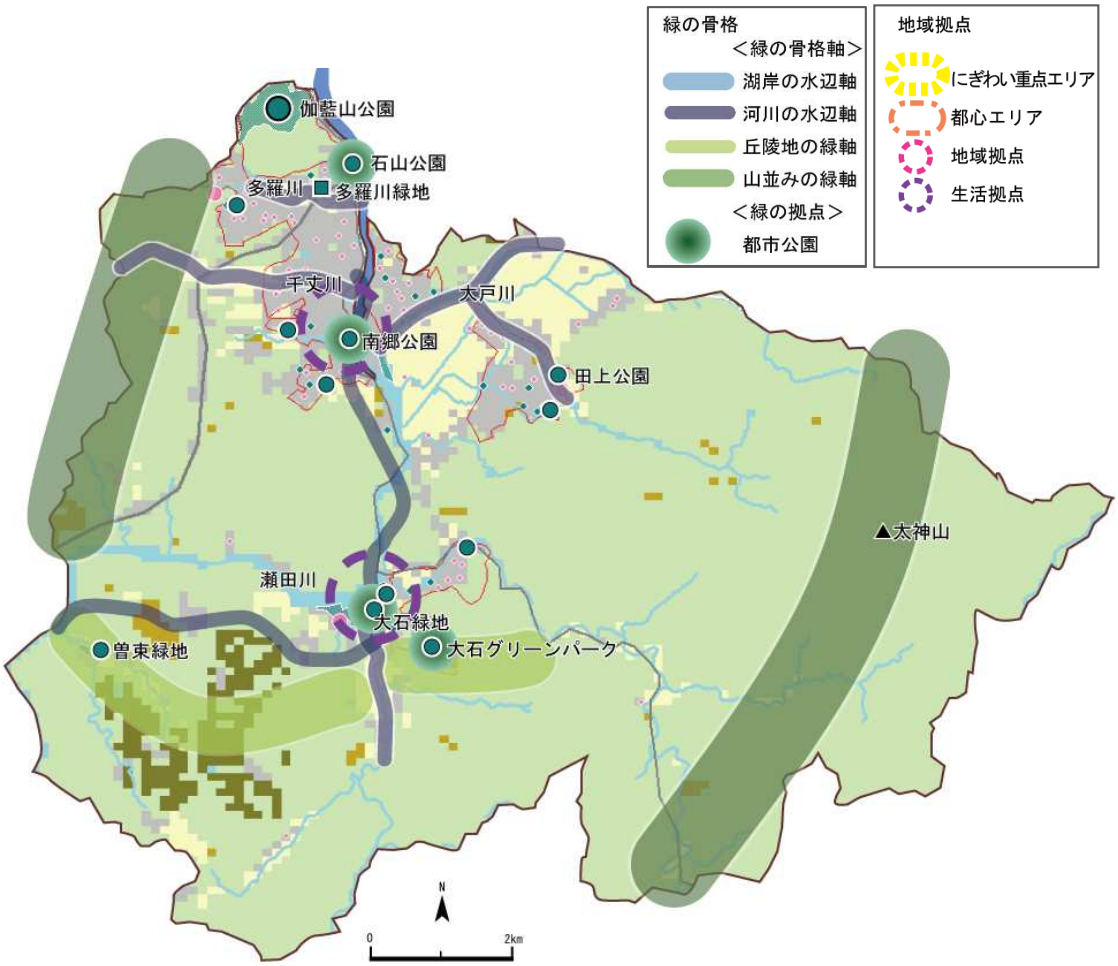
基本方針３　協働による緑のまちづくりの促進

- 地域振興への活力を生み出す地域住民の交流の場となるよう、公園愛護会の活動を支援し、協働による公園の維持管理に努めます。
- 市街化区域内の農地は、コンパクトなまちづくりに対応し、オープンスペースとしての市民利用の検討を進めるなど、協働により農地を生かした緑の居住環境の充実に努めます。
- 子ども達が公園や緑地などの自然環境を活用した環境学習や自然体験を行えるよう、地域住民、大学やNPO団体などと協力し、仕組みづくりを推進します。

南郷公園の花見

鹿跳渓谷

＜南部地域の方針図＞


緑の骨格
＜緑の骨格軸＞
湖岸の水辺軸
河川の水辺軸
丘陵地の緑軸
山並みの緑軸
＜緑の拠点＞
都市公園
地域拠点
にぎわい重点エリア
都心エリア
地域拠点
生活拠点
伽藍山公園
石山公園
多羅川
多羅川緑地
千丈川
大戸川
南郷公園
田上公園
▲太神山
瀬田川
大石緑地
大石グリーンパーク
曽束緑地
N
0
2km

8. 東部地域

1）現況

位置

地域の面積

	全体	市街化区域	市街化調整区域
面積	5,162.9ha	1,342.2ha	3,820.7ha
構成比	100%	26.0%	74.0%

地域の人口の推移

人口			将来人口	
平成 18 年（2006 年）	平成 23 年（2011 年）	平成 28 年（2016 年）	平成 35 年（2023 年）	平成 43 年（2031 年）
64,506 人	69,935 人	74,874 人	75,000 人	75,000 人

大津市都市計画マスタープラン 2017－31

■地域の将来像　『文化ゾーンの自然と 21 世紀の健康科学を支える
学術・文化のまち 東部地域』

〔地域づくりの方針〕

◎人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくり

拠点機能の更なる強化と合わせて、各学区と拠点を結ぶ交通ネットワークを再構築するなど、瀬田駅周辺における地域拠点の充実に向けたまちづくりをめざします。

◎自然・学術・文化が漂う地域環境を創造する

自然・学術・文化が共生した地域環境の創造に向けて、豊かな地域資源を生かしたまちづくりをめざします。

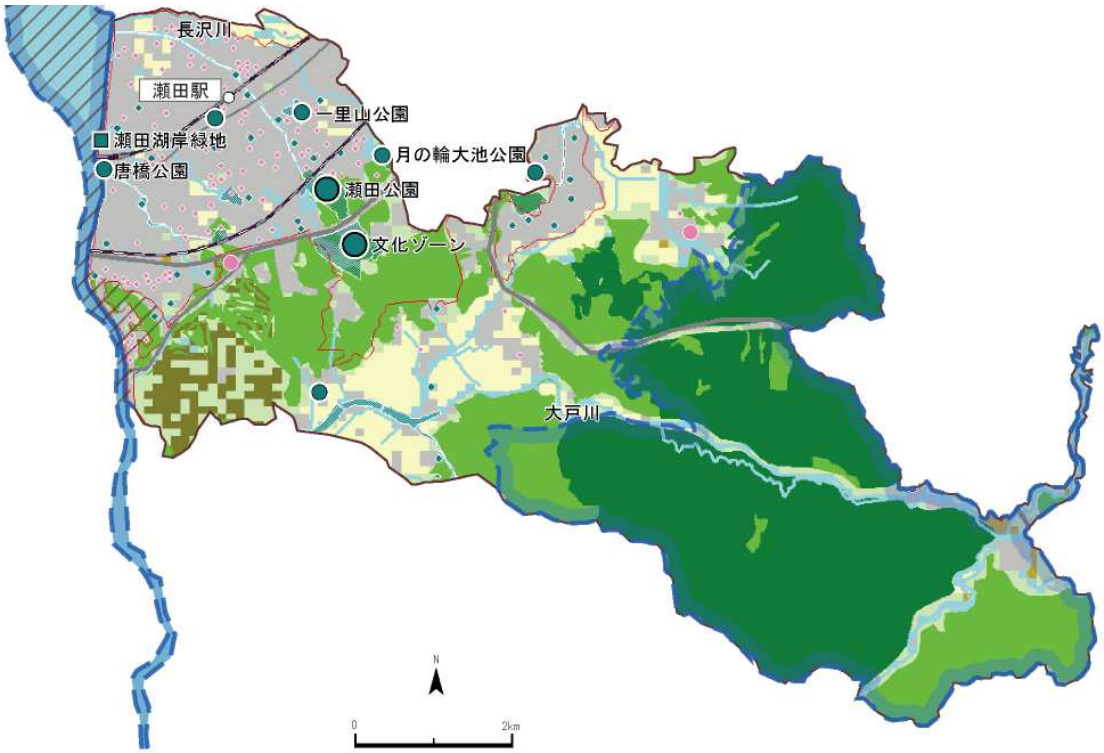
◎良好な定住環境の維持・充実に協働で取り組む

市内で人口増加率が最も高い本地域では、住民が主体となって定住環境の維持・充実に取り組むなど、住み心地の良い文化性豊かなまちづくりをめざします。

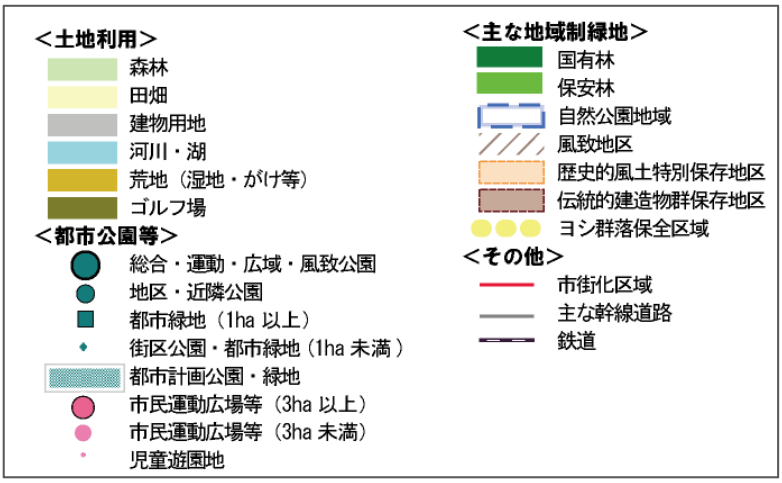
地域の特色

- 地域の人口増加率（平成 23～28 年）は約 7.1%で、市内では最も高くなっています。
- 平成 43 年の将来人口予測は約 75,000 人で、平成 28 年時と比べ約 100 人の増加が予測されています。

＜東部地域の緑の現況図＞



＊国有林と保安林が重なる箇所は、国有林を優先し記載



＜東部地域の緑の現況＞

- 山並みの緑の大半は自然公園や国有林、保安林に指定されています。
- 瀬田丘陵の一部は市街化区域に指定され、緑の環境を生かし青山地区などの住宅団地や文化ゾーンなどの公園利用、大学の用地などに利用されています。市街化調整区域ではゴルフ場や未開発の山林が広がります。
- 琵琶湖岸の低地は市街地として利用されています。
- 大戸川流域は、集落や田園地域が広がります。

＜緑の機能からみた地域の現況＞

歴史・景観	・ 近江八景の一景「瀬田の夕照」にちなみ、瀬田川左岸の道は「夕照の道」として整備。唐橋は日本三名橋のひとつ。 ・ 近江国庁跡や、瀬田の唐橋、建部大社、山の神遺跡などの多くの歴史・文化遺産がある。
防災	・ 山裾部の市街地の一部地域は土砂崩れの危険性が高い。 ・ 大戸川では古くから水害に悩まされ、近年では平成 25 年９月にかけての集中豪雨により出水し大きな被害を受けた。浸水想定区域が指定されている。 ・ 大戸川の整備が進められている。 ・ 琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域がある。 ・ 指定緊急避難場所に指定された都市公園 唐橋公園、一里山公園、月輪大池公園、瀬田公園
利活用・憩い	・ 一里山公園の緑のふれあいセンターでは、ハートフルガーデナー養成講座など、緑化のための人材育成の講座を開催。 ・ びわこ文化公園では木製遊具のある子ども広場や日本庭園、茶室、彫刻の道などの施設がある。
環境・生物多様性	・ 滋賀県ビオトープネットワーク長期構想の重要拠点区域に田上・信楽区域が指定されている。大戸川が生態回廊に指定。
交流・人づくり	・ 都市公園 45 施設のうち、14 施設で公園愛護会活動を実施。 ・ 手のひら花苑 17 団体、ハートフルガーデナー3 団体、すみれ会４団体、花街道１団体。 ・ 緑地協定締結件数は 22 件（79ha）。市内の緑地協定締結面積の８割を占める。

＜施設緑地の整備状況＞

施設緑地の面積

	市街化区域内	市街化調整区域内	合計	主な施設と面積
都市公園	72.4ha	3.0ha	75.4ha	びわこ文化公園 43.2ha、瀬田公園 12.8ha、月輪大池公園 3.5ha、一里山公園 2.0ha
都市緑地	3.4ha	0.9ha	4.3ha	瀬田湖岸緑地 1.1ha、大津草津緑地 0.8ha、松が丘緑地 1.0ha
公共施設緑地	10.4ha	1.1ha	11.5ha	児童遊園地 4.2ha、史跡・文化財 5.5ha
合計	86.2ha	5.0ha	91.2ha	

施設緑地の一人あたり面積及び市街化区域に占める割合

		東部	全体
一人あたりの施設緑地面積	都市公園・都市緑地	10.7 ㎡/人	9.8 ㎡/人
	公共施設緑地	1.5 ㎡/人	1.6 ㎡/人
	合計	12.2 ㎡/人	11.4 ㎡/人
市街化区域に占める施設緑地の割合		6.4%	4.3%

＊人口は平成 28 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳と外国人登録人口の合計による。

都市計画公園・緑地の供用状況

	計画箇所数	計画面積	供用面積	供用率	主な未供用の公園と未供用面積 ＊( )内は都市計画決定面積
都市計画公園	10	76.5ha	56.1ha	73.3%	牟礼山公園 16.9(16.9)ha、瀬田公園 4.6(12.8)ha、大江公園 4.0(4.0)ha、月の輪公園 4.0(6.0)ha
都市計画緑地	6	48.9ha	4.1ha	8.4%	大戸川緑地 23.4(27.0)ha<南部地域含む>、長沢川緑地 3.5(3.9)ha
合計	16	125.4ha	60.2ha	48.0%	

＊滋賀の都市計画 2014（滋賀県）を元に編集。

＜緑に対する市民の認識（市民アンケートより）＞

	結果（特徴）
住まい周辺の緑	・ 緑の満足度は 43%で全体より 4%高い。 ・ 10 年前と比べた緑の量は「減った」43%で全体と比べ 4%高い。 ・ 大津市にふさわしい緑は高い順に「公園・緑地・広場」68%、「琵琶湖と周辺の山々」67%、「街路樹、植樹帯」41%。全体と比べ「琵琶湖と周辺の山々」が８%低く、「街路樹植樹帯」が８%高い。
公園・緑地の利用状況や今後	・ 公園の利用目的は高い順に「散歩休憩」59%、「子どもの付添」「祭りやイベント」21%、「利用しない」が 20%で全地域で最も高く、全体と比べ 5%高い。 ・ 今後充実すべきことは高い順に「美しい景観形成」38%、「維持管理や活用など質の充実」35%、「防災機能」34%。「環境保全・調整機能」29%は全体と比べ 4%高く、「歴史や文化に配慮」25%は全体と比べ 6%低い。 ・ よく利用する公園は高い順に「びわこ文化公園」「唐橋公園」「一里山公園」 ・ 児童遊園地の今後の活用については全体とほぼ同じ。 ・ 公園以外で充実すべき緑は「学校や公共施設の緑の充実」41%は全体と比べ 7%高く、「森林風景」41%は全体と比べ 8%低い。
緑のまちづくり活動	・ 緑のまちづくり活動に「取り組みたい」とする人は 77%で全体と比べ 6%高い。 ・ 取り組んでいることや今後取り組みたいことは高い順に「草刈り」50%、「ゴミ拾いなどの清掃」47%で、全体と比べ「草刈り」は 7%、「ゴミ拾いなどの清掃」は 4%高い。

２）課題

緑の骨格の保全に関する課題

- 湖岸部一帯は瀬田湖岸緑地として都市計画決定がされています。唐橋公園や夕照の道が整備され水辺の雄大な風景を楽しむことができる立地を生かし、更なる魅力の向上が求められます。
- 大戸川の本流や支流周辺の集落は土砂災害の危険性が高い地域であり、適正な維持管理など、防災対策が必要です。
- 瀬田丘陵では一部は市街化区域に指定され、名神高速道路瀬田東インターチェンジ周辺でびわこ文化公園都市として整備が進められています。市街化区域に指定された丘陵地を中心に開発が進んでおり、環境保全との調和が求められています。
- 田上平野は、広々とした広がりがあり、田上山系瀬田丘陵と相まって優れた田園景観を形成しています。大戸川緑地や周辺の丘陵地を含め、独特な原風景を後世に伝えることが課題です。

都市公園などのマネジメントの強化と多機能化に関する課題

- 地域内の公園では、図書館や美術館が立地するびわこ文化公園をはじめ、市内では最長のすべり台やゲートボール場などのある一里山公園、スポーツ施設のある唐橋公園など、多様な機能をもつ公園があります。市民の公園の利用では、子どもの付添利用とともに、公園を利用しないとする人が他地域と比べ多くなっています。今後、子育て層の人口増加が見込まれる地域であり、子どもが育つ場としての公園・緑地の集約や再配置など、地域での利用状況に応じた活用を検討していく必要があります。
- 大津市にふさわしい緑として、街路樹や学校公共施設などの施設に伴う緑地の評価が高い地域であり、公園以外の場所における身近な緑が望まれています。
- 近江国庁跡や惣山遺跡などのある文教地区として地域の魅力を一層高めるためにも、文化財を保全する公園の利活用の推進が求められます。

協働による緑のまちづくりの促進に関する課題

- 一里山公園緑のふれあいセンターなど、緑化の拠点施設があり、緑のまちづくりへの市民の参加意欲も高いことをうけ、更なる市民緑化の普及や推進が望まれます。
- 青山や松が丘などの計画的な住宅団地が多く、丘陵地に開発された住宅団地を中心に市内の緑地協定地区面積の８割が集中します。協定期間が終了する地域が増えてきており、今後の住宅地の緑の保全が課題です。
- 龍谷の森では、龍谷大学が主催する里山保全や緑に関する取り組みや市民講座などが開催されています。大学や企業などが立地する地の利を生かし、市民、大学、企業などさまざまな主体が参加・交流する緑のまちづくりの場の推進が望まれます。
- 今後、人口増加が見込まれている地域であり、公園緑地を生かした子どもの成長・発達を支援する取り組みが望まれます。

３）地域の将来像

地域の特性や課題などを踏まえ、東部地域の将来像を次のように設定します。

地域の将来像

自然・学術・文化が共生する緑豊かな地域

４）方針

基本方針１　緑の骨格の保全

- 施設管理者と連携し、瀬田湖岸緑地の景観の向上など、琵琶湖の水辺景観の魅力の創出に努めます。
- 高橋川、大戸川、殿田川の浸水対策を促進します。管理者と協力しながら、山地災害が発生する恐れのある斜面地の森林の適正な維持管理を行います。
- 開発に伴う緑の保全を図ります。環境影響への回避・低減を優先し、失われる緑の代償となる新たな緑地の創出を必要に応じて検討します。
- 田上山地や農地、瀬田川などの豊かな自然や樹林地、田園景観、河川が一帯となった良好な景観について、景観計画における景観形成ができるよう努め、その保全に努めます。

基本方針２　都市公園などのマネジメントの強化と多機能化

- 人口増加を踏まえ、住み心地の良い文化性豊かなまちづくりを支える公園緑地や、児童遊園地の集約や配置の検討などの、適正化を図ります。市街化区域内農地などの宅地開発事業において街区公園などが適正に配置できるよう努めます。
- 市民や民間事業者と協働し、公園緑地や街路樹などの緑地の維持管理、充実を図ります。またこの地域は、瀬田公園体育館などの東部・南部地域の拠点となる運動施設を有していることから、びわこ文化公園の機能も活用することで、公園機能の向上に努めます。
- 建部大社や近江国庁跡など、史跡を保全する公園緑地の市民利用の促進に努めます。

唐橋公園

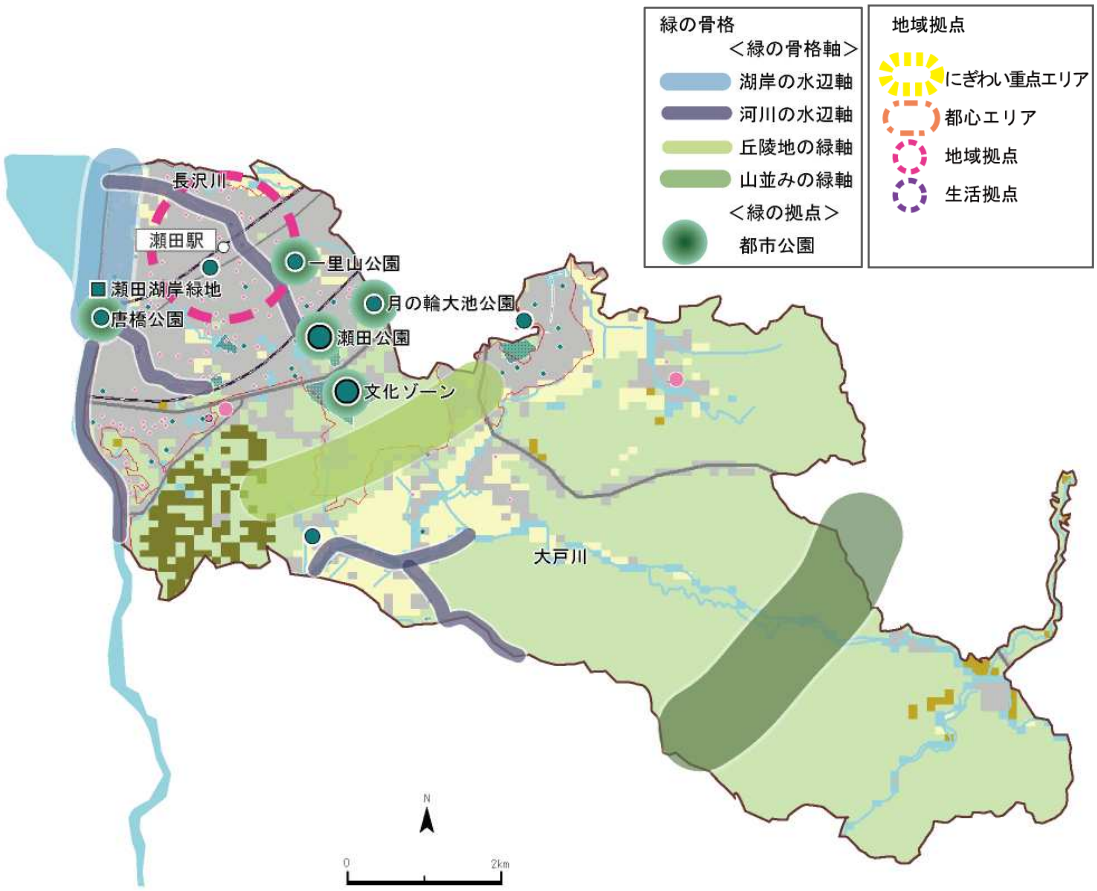
文化ゾーン

基本方針３　協働による緑のまちづくりの促進

- 一里山公園緑のふれあいセンターなど、地域の緑の拠点を活用し、公園の利用促進や市民の学びの場を創出することで、多様な緑のまちづくり活動を促進します。
- 青山や松が丘などの緑地協定により良好な緑が形成されている住宅団地では、緑地協定の必要性を継続的に市民に説明するとともに、新たな協定の締結を促すなどにより良好な緑の環境を有する住宅地として、維持形成に努めます。
- 大学など教育機関と連携し、地域住民などと共に様々な年齢層が参加する市民活動を促進することにより、持続可能な協働による緑の保全管理活動を創造します。
- 大学などの教育機関と地域の協働による、公園緑地を活用した子どもの成長・発達を支える先駆的な活動の推進を支援します。

一里山公園

＜東部地域の方針図＞


緑の骨格
＜緑の骨格軸＞
湖岸の水辺軸
河川の水辺軸
丘陵地の緑軸
山並みの緑軸
＜緑の拠点＞
都市公園
地域拠点
にぎわい重点エリア
都心エリア
地域拠点
生活拠点
長沢川
瀬田駅
一里山公園
瀬田湖岸緑地
唐橋公園
月の輪大池公園
瀬田公園
文化ゾーン
大戸川
N
0
2km